

令和6年度 江戸川区立小松川小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○心豊かな 思いやりのある子 ○よく考え 進んでやりとおす子 ○健康な 明るい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○「わかる」「できる」喜びを味わい、確かな学力を身に付けられる学校。 ○自他ともに大切に作る知・徳・体のバランスのとれた児童。 ○一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 「教科担任制」による取組が定着し、質の高い授業の提供や教員間での協働が円滑に行われるようになってきている。 <課題> 自己肯定感や自己有用感については、さらに高めることができる。「わかった」「できた」「たのしい」と感じられる経験などの成功体験を積み重ねられるようにしていく必要がある。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学力向上アクションプランを作成し、具体的な数値目標と手立てを決める。 ・一単位時間の中でめあてを明確にし、振り返ることのできる授業を確立する。 ・一部教科担任制を実施し、専門性を生かした授業を展開する。 ・一人一台のタブレット端末を有効活用し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図る。	・全国学力調査、都学力向上のための調査で「授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答90%以上。 ・全国学力調査の国語・算数の都平均以上。 ・年に3回の授業観察で授業改善に向けた課題を具体的に把握し改善を目指す。 ・タブレット端末を活用し深い学びとともに、ミライシードで個に応じた習熟を深める。	B	C	●「授業の内容がよく分かりますか」の肯定的な回答は国語85.4%、算数78.2%であった。 ●全国学力調査では、東京都平均に対し、国語±0%、算数-8%であった。 ○授業観察において各自の授業改善の課題を把握し改善に取り組んでいる。 ○タブレット端末を活用し、ミライシードに取り組み、個に応じた学習を試みている。	B	・算数について昨年より低下したのが残念。算数少数人数の取組や朝学習などで補習を充実させ、今後に期待している。 ・習熟度に応じた「分かる授業」を実践するなど個の基礎学力の定着を図ってほしい。 ・国語の基礎力が定着しているのは、読書科の成果と考えられる。各学年、読書を勧めてほしい。	・学力向上委員会を中心に、各学年の課題を明確にし、授業改善に生かす。 ・朝学習、放課後補習などのほか、タブレット端末や学習カルテを活用し、各自が必要とする基礎基本の習熟を図る。 ・区学力調査における全国平均との差を、今年度と比較しそれぞれ+2ポイント上昇させる。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科年間指導計画や学校図書館全体計画に基づいて、他教科との関連を図り探究的な学習を推進していく。 ・週4回の昼読書や月2回の読み聞かせ、年3回の読書月間を活用し読書活動を充実させていく。	・年間計画に基づいて、読書科と他教科の連携を図る。 ・年間35回以上の学校図書館を利用した読書科の時間を実施する。 ・読書月間では担任等を入れ替えて読み聞かせをする。 ・地域図書館から月1回の団体貸し出しを活用する。 ・年3回以上、探究的な学習の成果を発表する。	B	B	○年間計画に沿って、読書科と他教科の連携を図っている。 ○6月の読書月間では、担任を入れ替えて読み聞かせを実施できた。 ○地域図書館から月に1回の団体図書を借り活用した。 ●全学年において探究的な学習に結び付けることができていない。	B	・今後も読書科を通して、読書が楽しいと思う児童を増やしてほしい。 ・読書が学力向上につながっていると感じる。	・年間計画を見直し、読書科のねらいを見直す。 ・読書月間の取組が不十分のため、次年度に向けてより効果的な活動を検討する。 ・読書科と他教科との連携を見直し、改善する。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実	・できる喜びを感じることができる授業づくりの推進。 ・休み時間の外遊びの推奨。 ・東京都体力・運動能力調査を分析し指導に生かす。 ・食育・健康教育の充実。	・都、区での授業を参観した教員に伝達研修を実施させ、全教員で情報共有する。 ・12月から1月にかけて全校で持久走に取り組み体力を高める。 ・都体力・運動能力調査の結果をすべての学年、種目で全国平均以上を目指す。 ・栄養士や養護教諭を中心に食育、健康に関する教育を充実させる。	B	B	●都や区の授業を参観したり、校内で研修することができていない。 ○体力・運動能力調査では、ほとんどの学年、種目で東京都平均を超えている。 ○栄養士、養護教諭を中心に、食育、健康教育に取り組んでいる。	B	・コロナ禍で児童生徒の体力は一般的に低下したが、本校は都平均を上回っており喜ばしい。今後、家庭や地域でも、縄跳びなどに取り組むことで運動嫌いな子でも体を動かすことにつながる。	・体力・運動能力調査の結果を分析し課題解決の方策を検討する。 ・縄跳びの運動を充実させるため、計画を改善修正する。 ・養護教諭を中心に保健指導を計画的に行い、健康への意識を高める。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、共同学習の実施・充実	・ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくり。 ・エンカレッジルームの効果的な活用。 ・副籍交流の推進。	・教室内外の掲示物、板書等ユニバーサルデザインを意識した教室環境を整える。 ・エンカレッジルームの使用方法について検討し、必要な児童が必要な環境において気持ちをコントロールできるように整備する。 ・月に1回、学校だより等を交換したり、読み聞かせや学級活動など可能な範囲で交流したりする。	A	A	○ユニバーサルデザインに沿った教育活動環境を整えることができた。 ○エンカレッジルームの活用について再検討し、必要な環境を整えた。 ○特別支援学校の児童が授業に参加するなど積極的に推進できた。	A	・介助員や支援員を積極的に導入することで、特別な支援が必要な児童を受け入れることができ、共生社会につながる。 ・エンカレッジルームの活用について、利用者の実態とそれに対応する対応を共有したい。	・多くの支援員の補助で、多様な児童への対応をすることができた。より効果的な対応ができるように学校体制を見直す。 ・エンカレッジルームの効果的な活用について、約束を見直す。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	・不登校・いじめに対し、未然防止に尽くすが、早期発見、早期対応を組織的に行う。 ・ふれあい月間や学校生活アンケートを実施し、児童の実態をつかむ。 ・hupaer-QUを実施し、学級内の満足度を的確に捉える。	・不登校・いじめについて週に1回の生活指導夕会で情報共有する。 ・年3回のふれあい月間や学校生活アンケートで児童の変化や悩みなどを早期にとらえ、対応する。 ・hypear-QUで学校生活不満足群をゼロにする。	A	B	○不登校・いじめの情報を迅速に共有して対応することができた。 ○不安や悩みがある児童に対しては、ふれあい月間において、複数の教員で丁寧に対応することができた。 ●hyper-QUで学校生活不満足群が、各学年で1,2名存在する。	A	・不登校児童が少ないのは教職員の努力の成果、今後も粘り強く関わってほしい。 ・不登校児童が学校以外でどのような生活をしているのか把握・確認することが大切。発達障害について早期に対応する必要がある。	・不登校、いじめの対応について、未然防止、早期発見、早期対応するための組織的対応の再確認をする。 ・発達障害等について、組織的に正しく判断するための研修計画を立てる。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページに児童の様子を掲載し、保護者や地域に学校の様子を分かりやすく周知する。 ・年4回の学校公開では、事前の周知を徹底し、より多くの保護者、学校評議員に実際の学校、児童の様子を見ていただく機会を充実させる。	・週に1回以上、ホームページ上に学校の様子を更新する。 ・年4回の学校公開と参観に関するアンケートを実施する。	A	A	○ホームページを週3回の頻度で更新し、学校の様子を伝えることができています。 ○学校公開や学校説明会などでは、多くの保護者、地域の方々から児童の様子を参観している。	A	・学校ホームページで本校の様子が分かり安心して参観している。保護者や地域に開かれた学校運営だと思える。	・ホームページの更新頻度をさらに上げるための仕組みを検討するとともに、閲覧数を増やし、保護者・地域に情報が伝わるよう工夫する。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者アンケート、学校関係者評価の実施により、課題を明確にし改善を図る。	・学校だより、ホームページ等で学校の様子を随時お知らせする。 ・学校評議員には年3回、学校参観の機会を設ける。	A	A	○学校だより、ホームページ等で学校の教育活動についてお知らせしている。 ○学校評議員の方々から学校経営について説明したり授業参観していただいたりして助言をいただいている。	A	・評議員にも丁寧に説明している。 ・小松川高校との連携も期待している。	・年3回の学校評議員委員会を充実したものにするために、情報の公開と内容に工夫する。
特色ある教育の展開	・教科担任制を実施し、専門性を生かした授業を展開する。	・一部教科担任制を実施し、専門性を生かした授業を展開させる。	・外国語、社会、理科等で教科担任制を実施し、学習指導の質を上げる。	A	A	○第3～6学年において教科担任制を実施している。専門性を高め、組織的に全児童を指導していく。	A	・教科担任制で多くの児童と関りができている。高学年には特に実施してもらいたい。	・教科担任制の成果と課題を整理し、より効果的な学習指導、組織運営に向け修正改善する。
	・自己肯定感を高めるための指導方法を校内研究として検討し、実践する。	・教育活動全般において、児童の自己肯定感を高める工夫を校内研究会で実践を踏まえて協議する。	・月1回の校内研究会で講師を招き、自己肯定感を高めるための指導方法について実践例をもとに検討し、課題解決を図る。	A	B	○自己肯定感を高める実践例を共有し、さらに研究を深めていく。	B	・実践の具体例と効果を知りたい。 ・若い教員が多いため、さらなる研究を期待する。	・授業力向上のための研修を他地域に広げ充実させていく。